

北っ子 敷島北小学校だより

令和6年3月18日 文責 学校長 増坪広夫

卒業と進級に向けて

3月19日（火）に32名の子供たちが敷島北小学校の卒業生として巣立っていきます。卒業生や保護者の皆様には心からお祝いを申し上げますとともに、子供たちへの指導・支援に関わってくださった多くの方々に感謝申し上げます。卒業は新たなスタートでもあります。卒業生が自分の夢に向かって、一步一步、努力を重ね、幾多の壁を乗り越え、自分の夢を実現していくことを心から期待しています。残された在校生にとっては3月25日（月）が1年を締めくくる大切な修了式となります。この1年を振り返り、自分の成長に自信を持つとともに、次の学年に向けてしっかりと目標を持たせたいと思っています。

テストだけではわからないもの

1月は「いく」2月は「にげる」3月は「さる」といわれるように、3学期も残りわずかとなりました。子供たちも1年間をしめくくる時期となり、どの学年も学習の成果を測るためのテストの回数も多くなります。

実は、人間の能力や実力には「テストではわからないこと」がけっこうあります。それは「体験することによって身につけていく能力」のことです。小学校でアクティブラーニングと呼ばれる体験学習や校外学習などが多く行われている理由でもあります。たとえば「課題を解決するために工夫する力」などが代表的なものです。「集団行動で自分勝手なことをしない」といった「相手に合わせて行動する」ことも大事な体験です。また「目標が達成できた喜び」や「失敗したときの悔しさ」なども大事な体験の一つになります。このような力は「テスト」だけでは得られないものであり、一つ一つの体験の中でしか身につけられないものでもあります。



子供の頃を振り返ると、小学生のころテストの点数が悪くても、中学校や高校に行ってから勉強が得意になったという子が意外と多かったような気がします。多少「ワンパク」でも「体験によって身につけた力」を持っている子なら、きっと大丈夫だと思っています。

それよりも逆の場合の方が心配になります。「学歴は高いのに仕事ができない人」の存在が企業や海外などでも問題になっているからです。

能登半島地震災害義援金を届けました

お正月に石川県能登地方で大きな地震があり多くの方が被災され、懸命な復興支援が現在も続いています。本校でも被災に遭われた方々に何か協力できることはないかと考え、児童会を中心に募金活動に取り組みました。お陰様でたくさんの募金が集まり、児童代表として児童会長が1月29日に日本赤十字社山梨県支部に届けました。短期間の募集ではありましたが、寄付総額90,823円の浄財が集まりました。保護者の皆様にもご協力いただきましたが、温かいご支援ありがとうございました。



まわり道した人にしか見えない景色がある

卒業文集の卒業生に向けたメッセージに、こんな話を載せさせていただきました。

日本航空に、飛行機のジェットエンジンの「鋏（びょう）」を打つ世界的な技術者がいるそうです。この人はパイロットになりたくて日本航空に入りました。

ところが、適性検査の結果、整備のほうにまわされてしまいました。

大学の工学部を出ていることもあったからでしょうか、最初に与えられた仕事は何とネジを磨くことでした。

工学部出身の若者が三人、くる日もくる日も雑巾でバケツ一杯のネジをきれいに磨くのです。

そのうち二人は「こんな仕事をするために、大学の工学部にいったのではない」と怒って日本航空をやめてしまいました。

残った一人は、二年間ネジ磨きをさせられました。

なぜ、こんな単調な仕事が二年間も続けられたのでしょうか。

それは、毎日毎日、「どうやったらうまく磨けるか」と工夫しながらやったからです。

単調な仕事の中に「工夫」というものを入れ、仕事を楽しいものに変えたのです。

工夫すれば、毎日同じネジ磨きも新しい仕事に変わります。工夫には限りがないからです。

この人は、次にリベットで床に穴をあける仕事を与えられました。

この仕事は少しでも穴が曲がってはいけないのです。ここでも工夫に工夫を重ねて、まっすぐに床に穴をあける技術を習得しました。

そして、今度はジェットエンジンのまわりについている無数の鋏を打ち込む仕事を与えられました。

これまで工夫して身につけてきた技術が生きて、まっすぐに穴をあけ、まっすぐに鋏を打ち込むことができました。

そして、気がついたときには、「鋏打ちの世界的技術者」になっていたそうです。

私も若かりし頃、「無理なこと」や「無茶なこと」をたくさんしてきました。でもそのどれも「無駄ではなかった」と年を取ってから考えることがあります。経験したこと、特に失敗したことからは多くの事が学べます。たとえ回り道したとしてもその経験は自分だけの財産であり将来の宝物にきつとなるはず

ゴール×スタート

本来、「スタート」であるはずのものが「ゴール」となってしまふことがよくあります。例えばスポーツをやっている人であれば一度は夢見るプロスポーツの世界です。実際、プロ選手になれる人数を平均すると、毎年、野球のドラフトで80人程度、サッカーは高校生からだと90人程度だそうです。

そんな厳しい世界でも「プロになっただけで満足してしまう」選手は良い結果が出せなくなってしまうそうです。プロになるような選手なら、必ず「他の人には負けない良いもの」を持っていて、小さなころからプロになることを目指して頑張ってきたはず。それだけに「プロになる」ことは「夢をかなえた」と現状で満足してしまう人がいるそうです。

学校も節目になりますが、新学期に向け新たなスタート地点として、新たな決意で努力を重ねる子どもたちであってほしいと願っています。

